

総合科学の基礎C
哲学思想の基礎

2018/5/2

そもそも「哲学」とは③

前回の要点

17世紀に作られた言葉

- 「認識」という日本語は、「正しい知識」「個人的見解」という全く逆の意味で使われる
 - 哲学の文献では「正しい知識」という意味。
- パルメニデス以来、哲学は「存在」とは何かについて考えてきた。「存在論Ontology」
 - パルメニデスは、「一にして不変」と考えた。
 - デモクリトスは、「多数の不変」と考えた。
 - プラトンは、個物の背後に普遍的なアイデアが実在すると考えた。
 - アリストテレスは、個物は素材と形(普遍的な形相)で構成されると考えた。

つづき

19世紀に作られた言葉

- デカルトは、「正しい知識」をどのようにしたら持つことができるか、と考えた。「認識論Epistemology」
 - 17世紀ごろ、望遠鏡などによって、目では見えないものを見ることができるようになった。
 - レンズや光についての研究が進んだ。
 - 眼の仕組みについての研究が進んだ。
 - 「感覚は物そのものではなく、脳が(心が)構成したもの」と考えられるようになった。
- カントは、「物自体Ding an sichは認識できない」
 - 認識の枠組みは人類普遍と考えた。

まだつづき

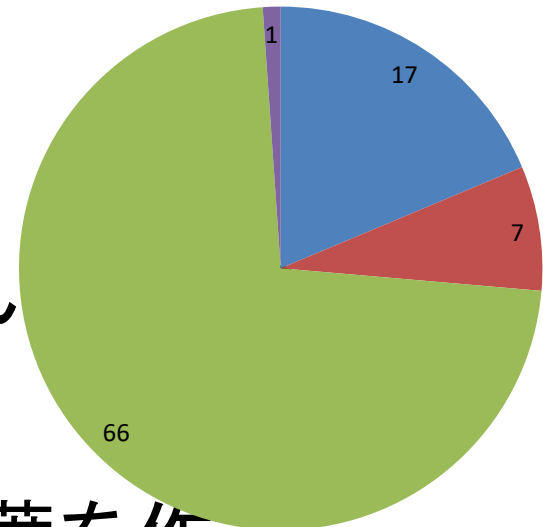
- 20世紀になって、相対主義Relativismが流行。
 - サピア・ウォーフの仮説
 - ソシユールの言語学
 - 文化人類学

ここからは補足

- 1970年代以降、認知科学の発展により、人類の認識の普遍性が強調されるようになった。
 - チョムスキーの「普遍文法」
 - バーリンとケイによる色彩語研究

前回分の小テスト

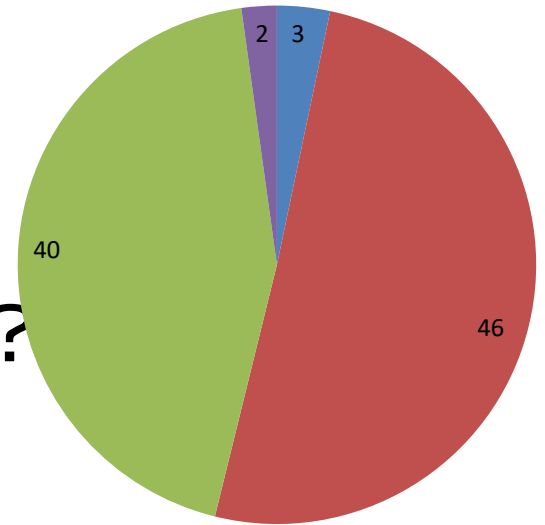
問1



• アリストテレスについて正しい

- ① 「哲学philosophy」という言葉を作った。
- ② 主に「存在とは何か」という哲学的な問いを扱った。
- ③ 物理学から政治学、心理学まで、およそすべての知識の領域について研究した。
- ④ 12世紀ごろにギリシアで活躍した。

問2



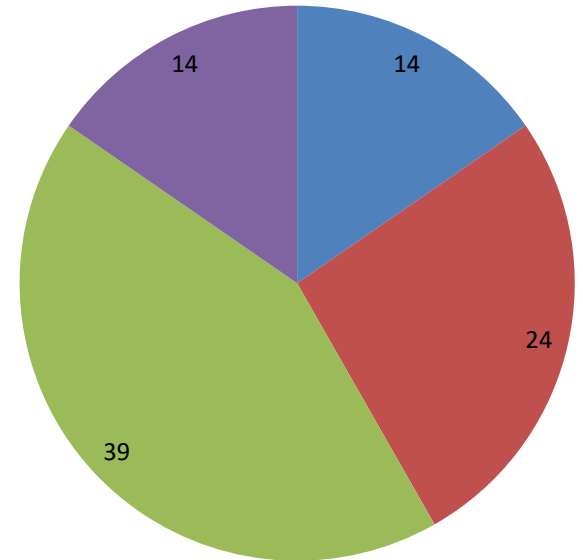
• デカルトについて正しいのは？

- ① 「われ歌う、ゆえにわれあり」と言った。
- ② 主に「存在とは何か」という哲学的な問いを扱った。
- ③ 物理学や数学、心理学まで、およそすべての知識の領域について研究した。
- ④ 紀元前4世紀ごろにフランスで活躍した。

問3

• ニュートンの著作の題名は？

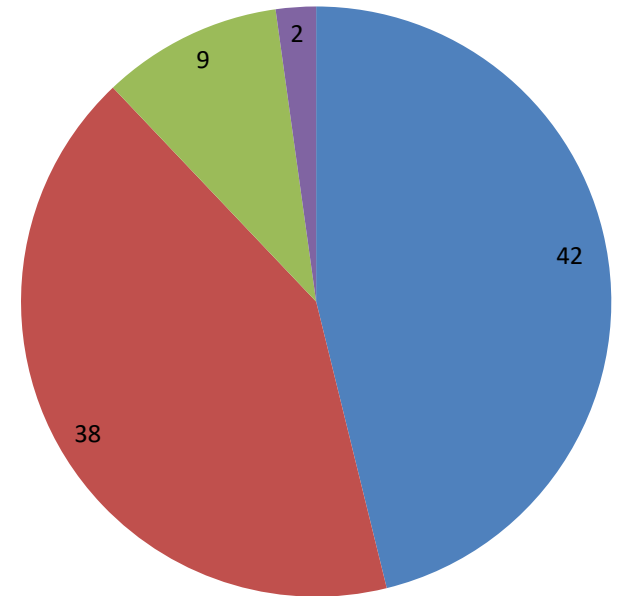
- ① 自然科学の数学的諸原理
- ② 自然哲学の数学的諸原理
- ③ 自然科学の哲学的諸原理
- ④ 自然哲学の科学的諸原理



問4

- 江戸時代、philosophyという言葉は何と訳されていたか。

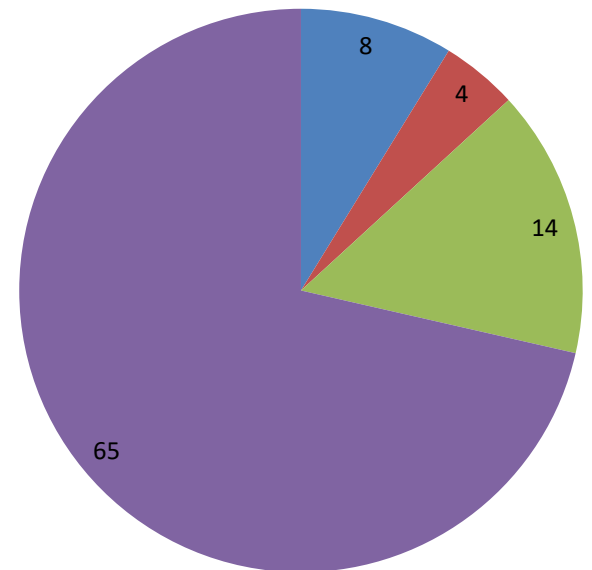
- ① 理学・物理学
- ② 哲学・形而上学
- ③ 教養・文芸
- ④ 芸術・心理学



問5

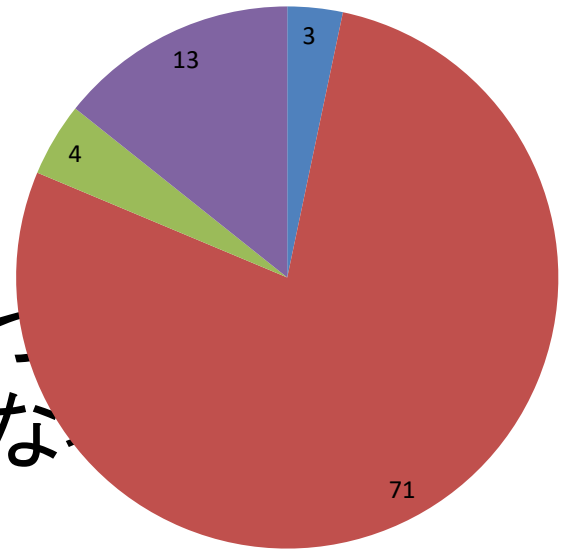
- 「平等」についての考え方として、授業では三つの例を挙げた。言っていないものを選び。

- ① 結果の平等
- ② 機会の平等
- ③ 可能性の平等
- ④ 能力の平等



問6

- 「なぜ」という問いの答え方について、テレスの四原因説はどのようなものか。



① 5W1Hで答えるべきだ。

② 目的・動力・材料・形相からの答え方がある。

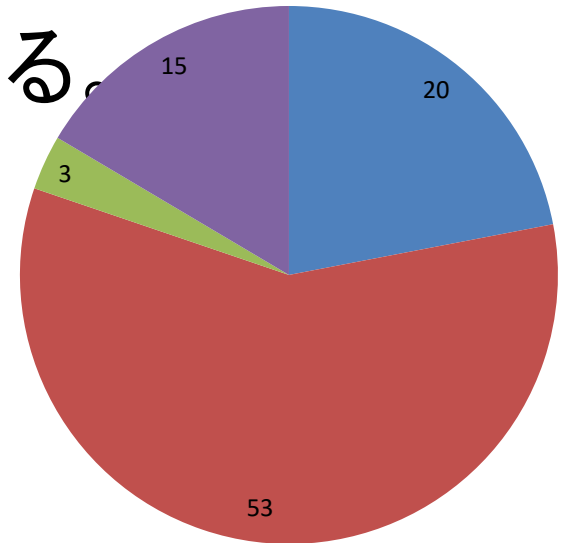
③ 自然科学では主に動力を答えるべきだ。

④ 原因は人間が経験によって想定する。

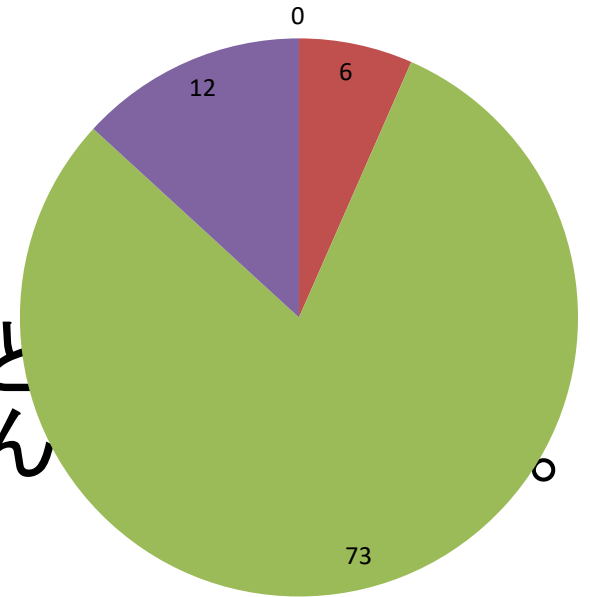
問7

- アリストテレスは神についてどのように考えたか。

- ① 世界を創造した。
- ② 世界の運動の第一原因である。
- ③ 踊る動者である。
- ④ 全知全能・無限である。



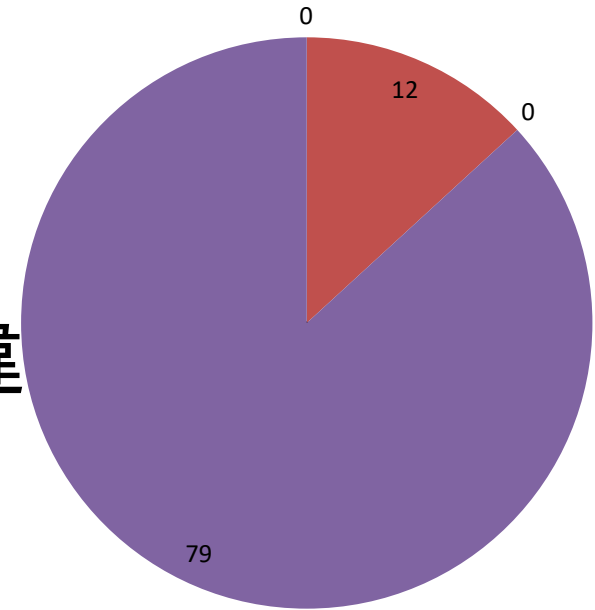
問8



- 前回、「善悪、正義非正義などそれぞれ」というコメントになん

- ① そのとおりですね。
- ② すべての人の価値観は同じです。
- ③ 個人的な価値観と社会的な規範は異なります。
- ④ それぞれに異なる個人的な価値観を尊重することで社会が形成されます。

問9



• 前回、「国が違くと法律が違になんと応答したか。

① そのとおりですね。

② 価値観や規範は社会や時代によって異なります。

③ 「ウソをついてもよい、盗みをしてもよい」と決まっている国もあります。

④ 国が違っても禁止されていることはおおむね同じです。

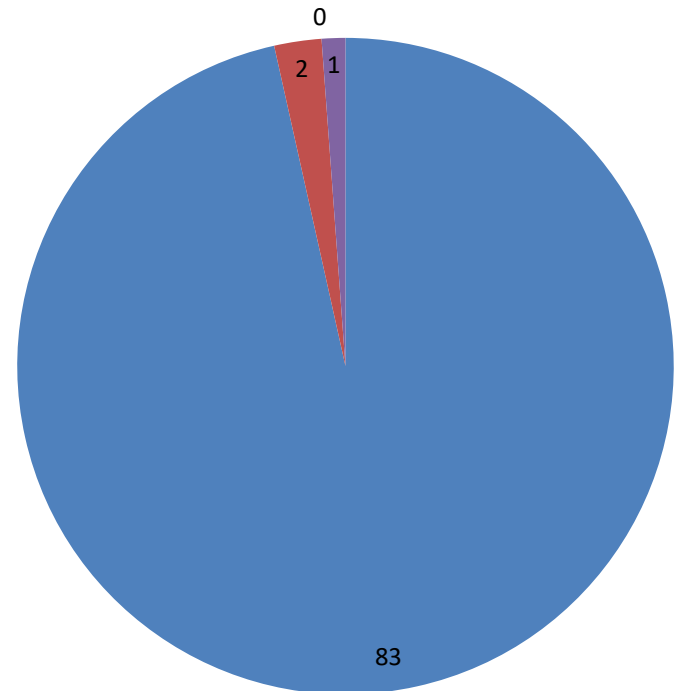
宿題小テスト

- 「選択肢をランダムに提示する」としたので、
選択肢の順は個人により異なる。

問1

- 哲学用語としての「認識」を英語で言うと？

- ① Knowledge
- ② Recognition
- ③ Belief
- ④ Understanding



問2

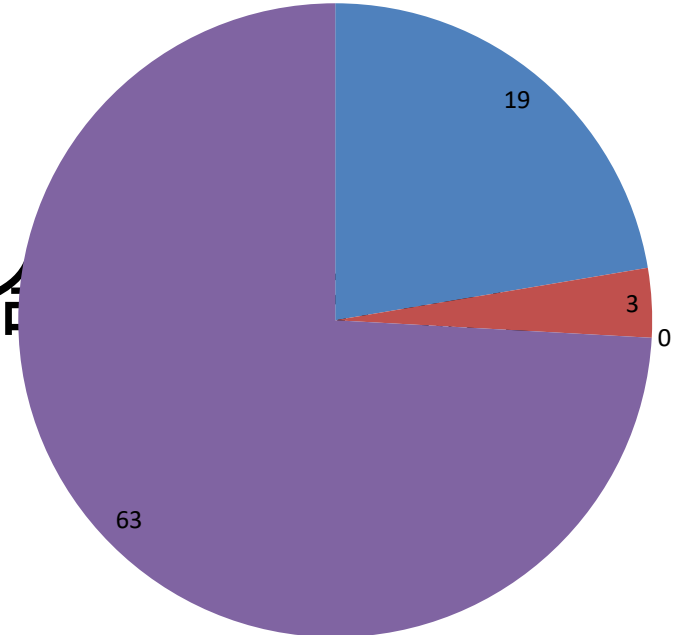
• プラトン哲学のポイントの一つは何か。

① エピステーメを脱してドクサへ。

② 認識と信念は同一。

③ 真理は人それぞれ。

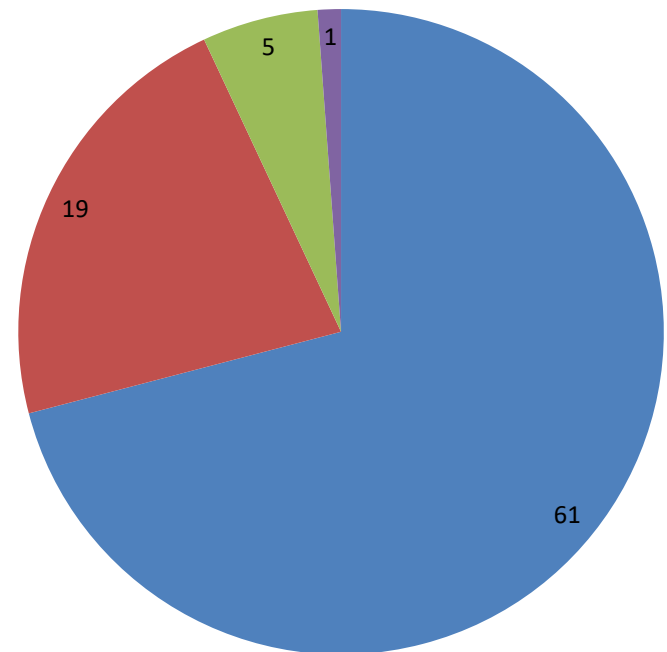
④ 社会全体が過っている場合がある。



問3

- アリストテレスの「形而上学」は、17世紀以降、どう呼びならわされたか。

- ① Ontology
- ② Epistemology
- ③ Psychology
- ④ Anthropology



問4

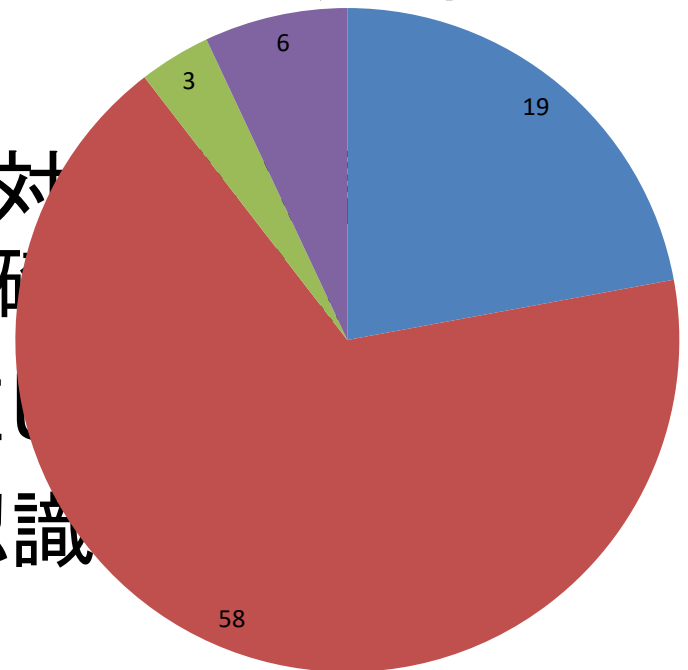
- デカルトはどのように考えたか。

① 人間はどのようにしても正しい認識を得ることはできない。

② 「私が存在する」という絶対真理によってすべての認識を基礎づける。

③ この世界には私しか存在しない。

④ 言語や文化が異なると認識が異なる。



問5

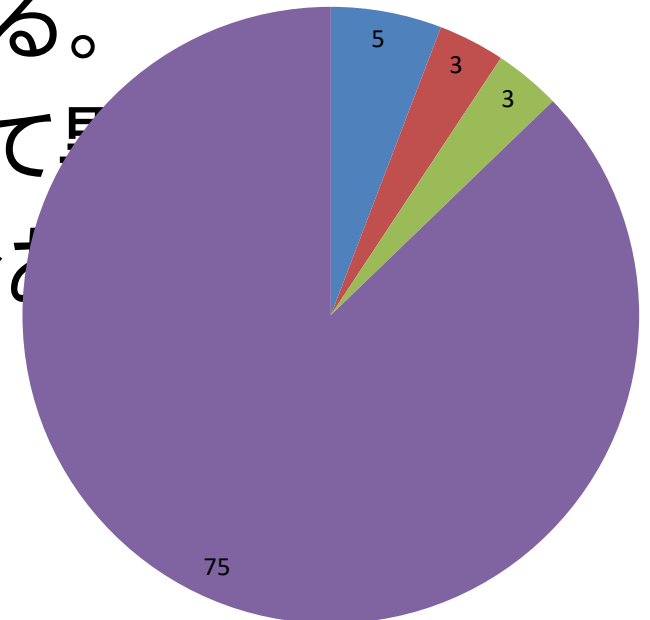
• カントはどのように考えたか。

① 偏見を捨てて物自体を認識するべき。

② 認識は人それぞれに異なる。

③ 認識は言語や文化によって異なる。

④ 認識枠組みは人類普遍である。



問6

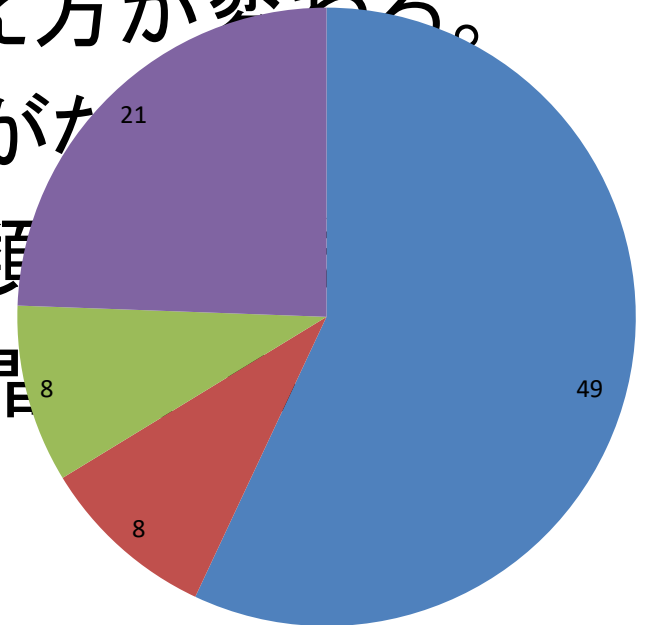
- サピア・ウォーフの仮説とはどのような考え方か。

① 言語が変わると世界の見え方が変わる。

② 人間の知覚は言語と関係がな

③ 色など基本的な知覚は人類

④ 人間の知覚には時間や空間
組みがある。



- 4月13日分の「学生のコメントとそれへの応答」に関する問題

問7

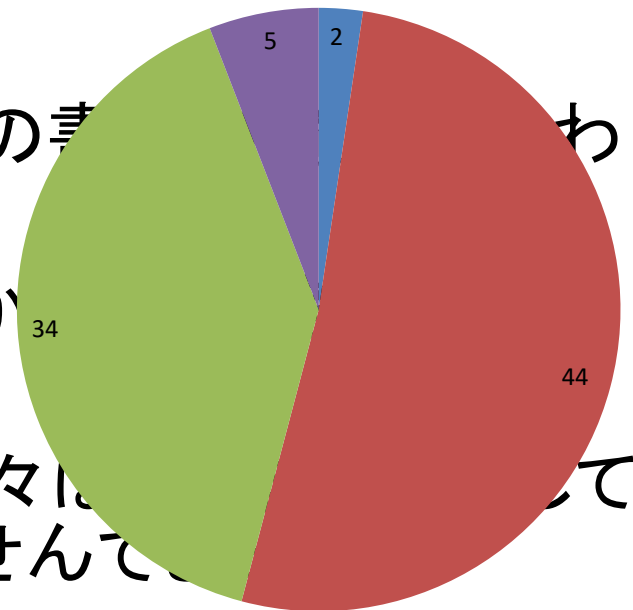
- 「philosophyが約100年前まで哲学ではなく、自然科学と訳されていたのは江戸時代の鎖国によって外来の文化がほとんど入ってこなかったことが原因の1つではないかと私は考える」というコメントになんと応答したか。

① そのとおりですね。

② 江戸時代にも、自然科学関係の書物がありました。

③ 歴史的事実に関することですか？
なく事実を調べましょう。

④ 江戸時代末期まで、当時の人々に「philosophyは自然科学と訳されている」という意識を持っていませんでした。



問8

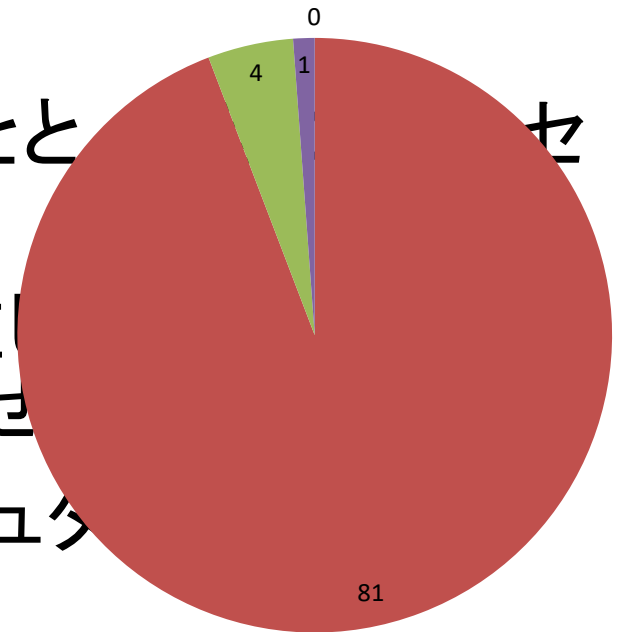
- 「リンゴが落ちる瞬間からニュートン自身が万有引力という自然科学の法則を作るまで一連の流れはその本人しかわからない」というコメントになんと応答したか。

① そのとおりですね。

② 本人が何を考えたかということと
スは別です。

③ 数理物理学の証明はとても難
証明した本人にしか分かりませ

④ 万有引力の法則は、アインシュタ
否定されました。

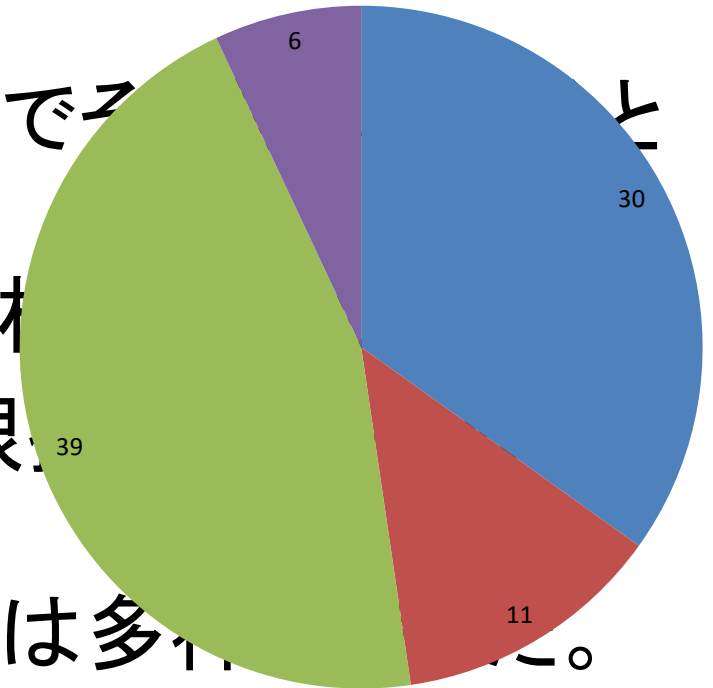


- 4月20日分の「学生のコメントとそれへの応答」に関する問題

問9

- 「日本では、「八百万」という言葉があるようにこの世にあるもの全てに神が宿っているという考え方がある」というコメントに対してなんと応答したか。

- ① 大多数の日本人が本気で多神教を信じていますか？
- ② 宗教間の違いが文化の根幹をなしていると思いますか？
- ③ そのような「考え方」の根拠を教えてください。
- ④ 西洋でもキリスト教以前は多神教が主流でした。



問10

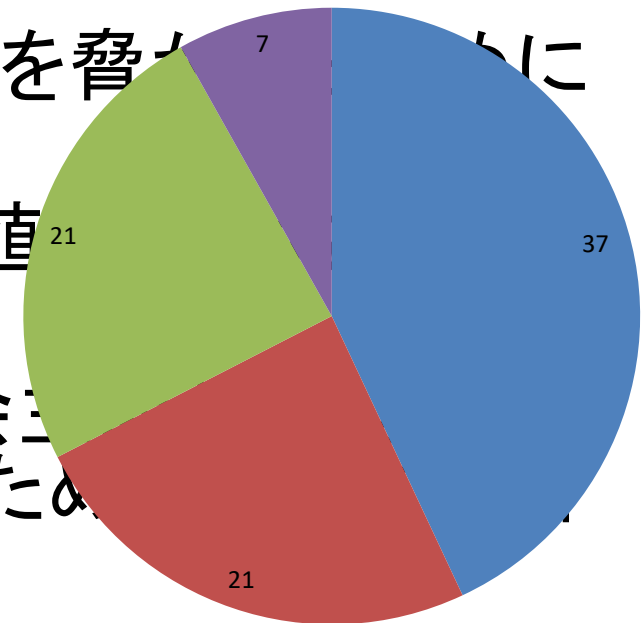
- 「冷戦時の資本主義と社会主義の対立のように、価値観のちがいは、国どうしの争いにもつながり得るのだと思いました」というコメントになんと応答したか。

① 「思う」はやめましょう。

② 社会主義は、資本家の地位を脅かすために、資本主義と対立が生じました。

③ 資本主義と社会主義は「価値観」が異なる。

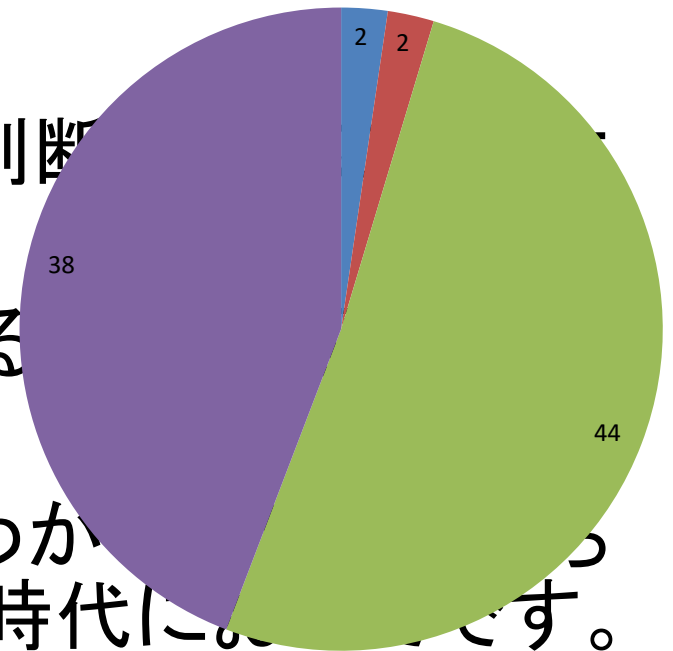
④ ソビエトの社会主義は、社会主義の一種で、社会主義全体主義に近いものだったため、資本主義の国と対立しました。



問11

- 「現在の私たちの考えも、それが正しかったのかそうでなかったのかは後世の評価を受けるまで分からないのではないか」というコメントにどのように応答したか。

- ① そのとおりですね。
- ② 後世の評価に耐えるような判断は現時点では適切です。
- ③ 哲学的・倫理的に考察するだけでは判断をすることができません。
- ④ ある考えが「まちがいだ」とわかっているのではなく、それが流布している時代には正しいです。



- 前回の残り

学生のコメントとそれへの応答

学生のコメントです

- 「自然科学的に見て神は存在しない」。
 - これは学生のコメントであり、内容は事実として間違い。
 - 自然科学はキリスト教における神の創造説を前提として成立した。
 - 「自然を創造した者」「自然の第一原因」については自然科学によって知ることはできない。
 - 新しい話を聞いても、自分の「ドクサ」に取り込んでしまう人が多い。自分の常識を否定するような事実や主張について理解するようにしましょう。
 - それが「異文化理解・他者理解」です。

正しさと価値観

- 「人それぞれに正しさは異なる。人それぞれに価値観が異なるからだ」。
 - 「価値観」と「正しさ」は別です。
 - 個人の価値観は、ほとんどの場合、「社会的に価値を認められたもの」の中からどれを選ぶかという「好み」の問題。
 - 「社会的な価値観の違い」と言われるようなものも、おおむね同様。

たとえば、

- 「国が違っても価値観は同じと言っていたが、例えば日本では周りに合わせる事がよいことで、アメリカでは自分のことは自分で決めるのがよいことである、など、やはり価値観の違いはあるのではないか」。
 - 日本でもアメリカでも、「周りの人たちの判断や感情を尊重すること」と「自分の意志は自分で決めること」の両方ともがポジティブな価値を持っており、違いはそのどちらがより好まれるかという点にあるだけではないですか？

まれに、

- 社会的に全く価値を認められていないようなものを愛好する人もいる。
 - しかし、社会的に禁止されているものを愛好する人は、処罰される。
 - ＝「間違った価値観」がある。
- そもそも、個人が「正しいと思う」と、「正しい」ことは別です。
 - 個人が「正しいと思う」からといって、その思いが間違っている可能性は大いにあります。
 - 個人の価値観や思いは、社会的・哲学的に正しいかどうかを判定されるべき対象であって、正しさの根拠にはなりません。

社会的規範と「正しさ」

- 「犯罪が多発している社会では、『道徳的な正しさは社会的規範』ということがなりたたないのではないか」。
 - 「犯罪が多発している」からといって、「犯罪が正しい」ことにはならない。
 - 「事実」と「正しいこと(なすべきこと)」とは違う。
 - ヒュームの「自然主義的誤謬」批判。

もちろん、

- 通常は、個人の価値観や思いの「正しさ」を判定するのは、社会的規範。
 - 社会的に禁止されているものを愛好すると処罰される。
 - 犯罪が多発する社会にも犯罪を禁止する法がある。
- しかし、社会全体が過つ場合がある。
 - たとえば、「個人は国のために命を捨てよ」という法律が定められることはありうる(徴兵制)。そして多くの人々がそれを「正しいこと」と信じるということもありうる。
 - 倫理的な理論は、社会的規範を検討し、批判するためにこそある。(プラトンのドクサ批判)

ではどうやって？

- 「社会的な規範の正しさは、どのようにして決まるのか。多数決で決まるのか」。
 - 多数決では、「多数派の専制」になる場合がある。
 - 哲学・倫理学は、人間本性や論理、慣習、法などを根拠として、「正しさ(なすべきこと)」を考察し、説得と合意形成を図る。
 - これら根拠の一つ一つが水戸黄門の印籠のような「決定版」「最終根拠」ということはない。知識は体系として力を持つ。
 - 「人間が正しいと思っていること」の中から、「本当に正しいこと」を探そうとする営み。
 - 詳しくは山口裕之『人をつなぐ対話の技術』を参照。

ここまでのまとめ

- 個人の価値観
 - 「好み」であって、「正しさ」ではない。
 - おおむね「人それぞれ」でない。ほとんどの人は、「社会的に許容された好ましいもの」の中から選択する。
 - 「ほとんどの人が価値を認めないもの」を愛好する人もいるが、許容される。
 - 「社会的に許容されないもの」を愛好する人は処罰される。
- 社会的規範
 - 通常は「正しさ」の根拠として通用する。
 - 社会的規範自体が誤る場合もある
 - 哲学・倫理学は、規範そのものを論理と事実によって批判的に検討する。

宗教戦争の原因

- 「歴史の中で人は、自分たちの信仰の中の規範にそぐわないものを異端などとし、排除してきた。根底にある倫理的な意味は同じでも、僅かな差異が原因で争ってしまう」。
 - 大部分の「宗教戦争」は、教派の権力や利権を守ることがそもそもの目的でした。
 - 闘争に際して、教義が連帯のきずなとして利用され、宣伝されたために、それを信じ込んだ人たちが、教義の違いを闘争の真の理由だと信じ込むようになった、というのが歴史的な実態でしょう。

価値観を異にする人と

- 「テロなど起こす人たちがいるので、価値観を内面化するやり方を国際的に統一すべきだ」。
 - そういう人たちはもう大人だから、今から価値観をすり込もうとしても難しいでしょう。
 - 考え方が違う人たちに対して、自分たちの価値観を強制的にすり込もうとするよりは、対話して相互理解を図る方がよいでしょう。

今日の小テスト

問1

- パルメニデスは存在をどのように考えたか。
 - ① 一にして不変
 - ② 多数にして不変
 - ③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する
 - ④ 個物は素材と形相で構成される

問2

- プラトンは存在をどのように考えたか
 - ① 一にして不変
 - ② 多数にして不変
 - ③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する
 - ④ 個物は素材と形相で構成される

問3

- アリストテレスは存在をどのように考えたか
 - ① 一にして不変
 - ② 多数にして不変
 - ③ 存在の背後に普遍的なアイデアが実在する
 - ④ 個物は素材と形相で構成される

問4

- 認識論を英語で言うと
 - ① Psychology
 - ② Ontology
 - ③ Epistemology
 - ④ Phenomenology

問5

- チョムスキーはどのように考えたか
 - ① 言語は経験によって獲得される
 - ② 人類の諸言語の文法は多様で共通点がない
 - ③ 色彩語は普遍的である
 - ④ 言語は人間に生得的である

問6

- ヒュームの考えはどれか。
 - ① 「事実」と「正しいこと」は異なる
 - ② 「正しいこと」は事実に根拠がある
 - ③ 自然を研究することで「道徳的に正しいこと」が得られる
 - ④ 道徳は人間の自然的本性に由来する

今日の宿題

- 授業コメントをmanabaで提出。
 - 締め切りは5月8日(火)17時。